



賀露の砂丘地



昭和 27(1952)年 米軍撮影



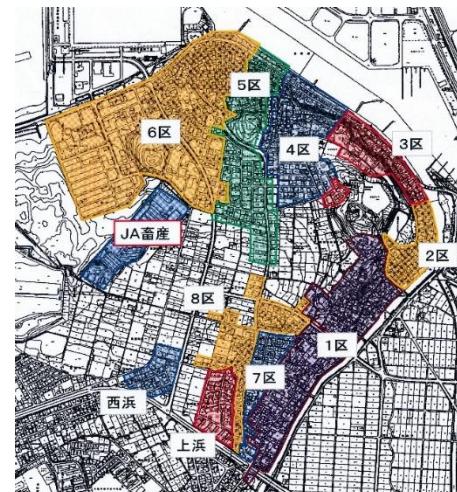
平成 19(2007)年以降撮影 国土地理院

砂丘 1区 坂口俊雄さん（大正10年生まれ）の話

昭和2、3年ごろ、今の7区より西側一帯の半分くらいは小松林であったが、養蚕が盛んになり桑畠に変わったものの、戦時となり福田軽飛行機会社、日産工場が出来て社宅や住宅が多くなった。また、8区の西側も一帯が桑畠であった。

さらに、奥の西側は雨量の多い時は土地が低いため排水がきかず、甘藷や野菜も雨の多い年は、ほとんど作物の収穫がなかつた。この一帯を水溜まりとも言っていた。今の経済連種鶏場に当たる横一帯は、大きな松もあった。ここを越えて海の方が高地のためその水の下がりで、くぼみになっていたのだろう。その辺の深い所には、鰯や鯉がいて、多くではないが捕つたことがある。

砂丘には、「バリン」と言って、夏も枯れない雑草が生えていて、その当時の老人が、根こそぎ取ってきて「バリンホウキ」を作り、小遣い銭程度の格安で販売していた。（賀露誌 P97）



賀露8区の今昔 「鳥取市老人クラブ連合会15周年記念誌」昭和54年度より

わが町は戦後、賀露砂丘地帯の一端にできた市営住宅12戸から始まり、昭和23年3月、60数世帯を8区と名づけた。当初、各戸に庭木などなくわずかの土地にでも食べられるものを作りたい時代であったが、庭続きともいえる防風林を子供たちは駆けまわり、夏は松陰にござを敷いて勉強もした。冬は雪投げ、そりに興じ、旧砲台跡の米倉へスキーの足をのばすこともできた。現行の飛行場の叢で虫を採り、模型飛行機を飛ばすなど、絶好の遊び場に恵まれていたものである。（賀露誌 P217）

地形 6区 網尾一男さん（明治44年生まれ）の話

まず西浜は、古来、真っ白な砂浜で、現在のようになったのは、終戦後昭和23、4年ごろ、補助を受け植林（砂防林）してからである。この砂浜の中に、米倉（よなぐら）から西方300メートルほどの所に、「青塚」（円墳か？）という小高い砂山があった（高さ約7メートル）。

なお明治末期から終戦まで、この真っ白な砂浜は陸軍（鳥取40連隊）の演習場で、演習のある日は網元にお触れが出され、その時間帯には、いくら魚群（はみと言った）が押し寄せて網引きが出来ず、切歎扼腕したものである。演習後実弾を拾い、その鉛を、イカ釣りの道具に使用したりもした。

本来、賀露は上賀露（1、2、3区）と下賀露（4、5、6区）に大別されていて、下賀露は、一番高い所では30メートルくらいの所を傾斜地に家が建ち並んでいた。川べりは、明治10年から20年ごろまでに、西の突堤が完成して出来た屋敷である（現在の4、5、6区の川沿い）。中には貝殻屋敷も含まれている。

上賀露は、湖山川に沿った家並みで、地形はあまり変わっていない。7区、8区、上浜などは、終戦後造成された町並みである。（賀露誌 P102）

（参考）砂丘西浜での演習



（参考）大正4年賀露村全図

